



平成25年10月28日

卓話 『教育再生実行会議について』

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)創業者・最高顧問  
RI第2580地区 東京西北ロータリー・クラブ会長

大竹 美喜 様

大竹でございます。私は日本の置かれた環境から人づくりが国づくりだと思い、20年前に社長を引退してからは人づくりと医療制度改革の2本の柱で仕事をしています。吹けば飛ぶような小さな国ですが、やはり日本は大国です。何故資源のないこんな小さな国が世界の大国なのか。それはやはりこれだけの国を作っていたらご先祖様に感謝せざるを得ない。戦後68年経った今、私たちはもう一度そのことを肝に銘じなきゃならないと思います。

昨年の12月30日、散歩中に下村大臣から私の携帯に電話が入り、1月4日までに教育再生実行会議のメンバーを決めなければならない、君も入るんだよといわれました。私は過去に同じような審議会に参加して何の効果も無かったという苦い経験をしていたので絶対にいやですとお断りしたんですが、今回は実行するから入れということで、もう既に14回目の会議を迎えるわけです。来年は教育再生国会と銘打って6本の法案を通す予定のようです。私はこの国は蘇ると信じています。なぜなら本当に今回は経産省の茂木大臣と下村大臣はすごく連携がいいんですね。ここが一番大切で、産業界に活躍できる人材を作ろうということで両省が一体になっています。

世界の長寿企業の2分の1は日本にあります。1000年以上の会社が19社、300年以上の会社が3000社以上あるんですね。日本は商道德、倫理道德がしっかりしているから金儲けに走る国民性ではない。アメリカ型の資本主義が導入されて正義をどっかに忘れてしまったのは本当に嘆かわしい。一刻も早く教育再生実

行会議で日本の教育の根っこから変えていく。それを成し遂げたらまた世界のナンバーワンになると思います。

今日、グローバル化と付き合わざるを得なくなりました。

だからこそ日本民族の誇り、日本人の強さを世界に発信するいいチャンスだと思います。東京オリンピック招致が決まり、若者もボランティアをやりたい、英語を身につけたいという環境が整ってきました。私たちはこれまで英語を聞くとか話すっていうのはあまり必要としなかったわけですが、今は英語がインフラになっちゃったんで、もう否が応でも英語を使いこなす必要がある。だから文科省も経産省も2年後の国家公務員の試験にTOEFLを採用することが決まりました。国が率先するわけですから、あとはそこに従って行くということになるでしょう。

私はこれからは日本の文化を発信していく必要があると思います。日本ではお祭りを年中やってるんですね。世界でこんなにお祭りをやっている国は日本だけです。日本の文化を世界に知らしめることで、どれほど高い評価を受けるか。日本人が自分の国の力を知らなさすぎるんですよ。そうすることで自信を失っている若者に自信を取り戻させることが大事なんです。グローバル化時代の今、世界どこへ行っても生きていける人材を作り出そうと考えています。

ご静聴ありがとうございました。

